

「敵を愛しなさい」

2015年06月05日

ルカによる福音書 6章27節～36節。「しかし、わたしの言葉を聞いているあなたがたに言う。敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にいなさい。悪口を言う者に祝福を祈り、あなたがたを侮辱する者のために祈りなさい。あなたの頬を打つ者には、もう一方の頬をも向けなさい。上着を奪い取る者には、下着をも拒んではならない。求める者には、だれにでも与えなさい。あなたの持ち物を奪う者から取り返そうとしてはならない。人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな恵みがあるろうか。罪人でも、愛してくれる人を愛している。また、自分によくしてくれる人に善いことをしたところで、どんな恵みがあるろうか。罪人でも同じことをしている。返してもらおうことを当てにして貸したところで、どんな恵みがあるろうか。罪人さえ、同じものを返してもらおうとして、罪人に貸すのである。しかし、あなたがたは敵を愛しなさい。人に善いことをし、何も当てにしないで貸しなさい。そうすれば、たくさんの報いがあり、いと高き方の子となる。いと高き方は、恩を知らない者にも悪人にも、情け深いからである。あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。」

主イエスの言葉の中で「敵を愛しなさい」という言葉が最も知られているのではないか。この言葉に主イエスの福音の真髄が表されている。主イエスは十字架の苦しみの絶頂で、「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです」（ルカ福音書23章34節）と自分を殺す者への赦しを神に祈ったと記している。この言葉を読んだ時、こんなことが言えるだろうかと、主イエスに決定的に惹かれていった。最近の聖書学では、著者ルカの挿入、あるいは後世の加筆であると考えられている。しかし、主イエスの神から遣わされた使命を言い表した言葉であることに間違いない。それは、神に敵対する罪人を赦し、神と共にあるインマヌエルの救いを与えてくださった福音そのものであるからである。パウロは、この福音をローマ書5章8節で「しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました」と書いている。人は「敵を愛しなさい」と聞いた時、そんなことはできないと思うだろうが、聖書は、主イエスは敵を愛して、生き、死んだと伝え、そこに全き救いがあると告げている。

愛敵を全うされた主イエスは群がる民衆に対し、敵を愛しなさい、憎む者に親切を、悪口を言う者に祝福を、侮辱する者のために祈りなさいと語る。また、頬を打つ者にはもう一方の頬を向けよ、上着を奪う者には下着をも拒むな、求める者には与えよ、奪う者から取り返すな、そして「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい」と説く。更に続けて勧めている。自分を愛し、よくしてくれる人を愛し、善いことをしても、また、返してもらおうことを当てにして貸したところで、どんな恵みがあるか。罪人でさえ、返済を当てにして、貸し与える。あなた方は敵を愛しなさい、無償で貸し与えなさい。そうすれば報いがあり、いと高き神の子となる。神は敵対する者にも情け深い。神が憐れみ深いように、あなた方も憐れみ深い者になりなさい。これらの言葉を倫理的要請として聞く時、とてもできないと萎縮してしまう。主イエスの十字架の愛を知り、神が関わってくださる終末的望みにおいて受け止められる言葉である。